



現在の科学では、地震の発生を予知することはできません。
私たちの住む佐伯区でも、五日市断層による大地震や南海トラフ巨大地震などが発生すれば、多くの死傷者や家屋が倒れるなどの被害が想定されています。事前に「備え」をしておくことで被害を最小限にとどめ、命と暮らしを守ることができます。
皆さんが地震について関心を持ち、いざというときに落ち着いて行動できるよう、日ごろから地震への備えについて家族とよく話し合っておくことが大切です。

地震の前に
備える

地震発生後直ちに
行動する

地震の後に
生活する

住んでいる場所で起きる地震や避難場所などを
知り、備蓄品や非常持出品を準備するなど地震に備えましょう。

落ちてこない、倒れてこないような場所に移動するなど、命を守るために、自ら判断して適切に行動しましょう。

不便な避難所生活での注意点や復興支援策などについて知り、生活再建に向けて踏み出しましょう。

佐伯区まちづくり百人委員会「災害に強いまちづくり部会」

地震の前に
備える

情報の共有

自分の生活圏でどのような地震が起きるのか、自宅の位置(地盤)構造(耐震)は安全なのか、避難経路の確認と避難場所はどこかなど、事前に把握し、家族と共有しておくことが重要です。
また、日頃から安否確認の方法や集合場所などを事前に話し合っておきましょう。

家庭内備蓄品の準備

- 地震発生後、電気・水道・ガスなどのライフラインの復旧、救援物資が届くまでの数日間、家で生活するため食料品等を備蓄しておくことが重要です。基本は1週間分(最低でも3日分)
- ★調理器具 カセットコンロ・ガスボンベ・使い捨て食器(紙皿・紙コップ)・ラップ・割箸など
 - ★食料 賞味期限が1年程度のインスタント食品、レトルト食品を消費しながら買い足していく「ローリングストック(消費→買い足し→備蓄)」による備蓄をする。缶詰・カレー・スープ・カップ麺・乳製品・コーヒー・飴・チョコレートなど
 - ★水 飲料水(一人1日3リットルが目安)その他生活用水
 - ★衛生用品 トイレtpペーパー・ビニール袋・新聞紙・歯ブラシ・ドライシャンプーなど
 - ★医薬・介護用品 家庭用常備薬・救急セット・大人用オムツ・乳児用オムツ・乳児用粉ミルクなど
 - ★照明・情報収集機器 懐中電灯・ラジオ・携帯電話の充電器・予備電池など

非常用持ち出し品

避難生活に備えて、必要な物をすぐ持ち出せるよう「非常用持出袋」に用意しておく。
持出袋は、両手が使えるようリュック型が良い。男性15キロ、女性10キロが目安。持ち出し品は、家族構成に応じた数と、避難所での生活に必要な物を用意する。

非常用持出袋は、いつでも持ち出せるように！

*裏面は、地震の後の生活、五日市断層図や被害想定、震度と揺れの状況です。

地震発生後直ちに
行動する

屋内では

- ★落下物・転倒物・窓から離れる
- ★机・テーブルなどの下にもぐる
- ★座布団等で頭を守る
＜揺れがおさまったら＞
- ★スリッパや靴を履き、足を守る
- ★家族の安否を確認する
- ★ドアや窓を開けて逃げ道をつくる
- ★火が出たらすぐ消火する
- ★ガスは元栓を閉める
- ★電気器具はスイッチを切る

屋外では

- ★落下物から頭を守る
- ★転倒物から離れる
- ★急傾斜面から離れる
- ★海岸から離れる
- ★電線に近づかない

運転中では

- ★ハザードランプを点灯させ、ゆっくり減速する
- ★道路の左端に寄せて停車する
- ★ラジオで情報収集する
- ★キーを付けて、ドアはロックしない
- ★貴重品や車検証を持って避難する

情報を得る

NTT 災害用伝言ダイヤル **171**
大地震発生時は安否確認などで被災地へ電話がつながりにくい状況でも利用できる声の伝言板です。説明が流れるのでその指示に従って録音(30秒以内)・再生をしてください。

避難する

- ★津波は高い場所へ直ちに移動
- ★避難者の確認をする
- ★声を掛け合う、連絡を取り合う
- ★要配慮者の避難を支援する
- ★要救助者の発見、搬送補助

非常持出し品(例)

- 携帯ラジオ
- 懐中電灯
- 予備電池
- 非常食
- 飲料水
- ヘルメット
- 雨具
- ナイフ
- 軍手
- タオル
- 下着・くつ下
- 救急薬品・常備薬
- 保険証・免許証・通帳のコピー
- 現金
- トイレtpペーパー
- ウェットティッシュ
- 歯ブラシ
- ビニール袋
- 生理用品

日常生活での地震対策

- ★地震が発生した場合、家の中で一番安全な場所を家族で確認しておく(例えば、トイレ、玄関スペースなど)
- ★家具・冷蔵庫等は止め金具、粘着マット等で転倒・移動防止を確実にする。照明器具、額などの落下防止にも気を配る
- ★寝室には転倒・落下しやすい家具類は置かない。古い建物は1階がつぶれている場合が多いため、2階建ての場合は、なるべく2階を寝室にする
- ★台所の食器棚等には、開き戸が開かないように留め金をつける
- ★部屋の窓ガラスには、ガラス飛散防止フィルムを貼るか、厚手のカーテンを使用する
- ★懐中電灯、携帯電話、スリッパ(ガラスが飛散した部屋を移動する時必要)などを枕元に置いて寝る習慣をつける
- ★風呂の残り湯や車の燃料は、半分以上確保する習慣をつける



地震の後に
生活する

自宅が被害を受けて居住できなくなった場合、避難所で生活する必要があります。避難所生活の注意点や生活再建に向けた様々な支援策には、次のようなものがあります。

避難所生活



- ★運営ルールや役割分担を決めて、トラブルにならないように協力し合い共同生活する
- ★生活環境を衛生的にするため、ゴミは所定の場所に集め、清掃は定期的に行う
- ★障がい者・高齢者・妊産婦などには手助けなどの配慮をする
- ★感染症防止のため、うがいや手洗いの励行とエコノミークラス症候群防止のため、できるだけ体を動かすなど健康管理に注意する
- ★ペットは避難所によって受け入れ可能である



人的被害



- ★区役所や避難所の相談窓口相談する
- ★被災者の保険会社問合先：災害地域生保契約照会センター（Tel0120-001731）は災害後立上る
- ★共済は個別に問い合わせる。国民共済、県民共済、農協共済、コープ共済等

建物被害



- ★被災写真を撮り、罹災証明を区役所へ申請する
- ★地震後の停電復旧による火災が多いので、電化製品の異常を調べる
- ★保険による被災評価後に修理をする。すぐに修理の必要がある場合は、修理前の写真を撮っておく

復興支援 ＊市ホームページ又は区役所へ

- ★災害弔慰金・見舞金
- ★被災者生活再建支援金
- ★義援金
- ★税等の減免（市民税、固定資産税、都市計画税、軽自動車税、介護保険料、国民健康保険料、国民年金保険料、介護保険利用者負担額、国民健康保険医療費一部負担金、水道料金、下水道使用料など）
- ★住宅復旧：災害復興住宅融資・災害公営住宅の提供など
- ★農漁業・小規模事業者への支援
- ★各種相談（健康・メンタルヘルス・生活再建・子育て・教育など）

震度と揺れの状況（気象庁HP震度階級表解説から）

4

【震度4】

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物や、倒れることがある。

5弱

【震度5弱】

- 大半の人が、恐怖を感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

5強

【震度5強】

- 物につかまらないうちで歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が倒れることがある。

6弱

【震度6弱】

- 立っていることが苦痛になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

6強

【震度6強】

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

7

【震度7】

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

予知できない大地震

五日市断層

五日市断層は、安佐北区久地から佐伯区を経て廿日市市阿品に至る、長さ20kmにも及ぶ断層ですが、岩国断層と接続して総延長約80kmといわれています。

最新の活動期は7世紀以後12世紀以前であったと推定されています。平均的な活動間隔に関するデータが得られていないため、今後の発生確率は不明です。

これらの断層は、全体が一つの区間として活動するとされ、マグニチュード7.0程度(震度6強)の地震が発生する可能性があります。



佐伯区の被害想定（平成25年度広島市地震被害想定から）

想定地震	最大震度	人的被害		建物被害	
		死者	負傷者	全壊	半壊
五日市断層	6強	46人	1,182人	1,477棟	6,614棟
南海トラフ巨大地震	6弱	101人	166人	2,226棟	3,415棟
安芸灘断層群	6弱	56人	322人	534棟	3,042棟
安芸灘・伊予灘地震	6弱	86人	267人	365棟	2,275棟
己斐・広島西緑断層帯	6強	11人	227人	283棟	2,141棟
岩国断層帯	5強	0人	5人	136棟	388棟

企画・編集 佐伯区まちづくり百人委員会 災害に強いまちづくり部会
部会長：古川孝義 副部会長：杉田精司
委員：稲迫公人 杉之原寛 平崎晃 藤坂定巳 宮前純子

発刊 平成30年3月
広島市佐伯区役所 地域起こし推進課
広島市佐伯区海老園2丁目5番28号
電話：082-943-9705 FAX：082-943-9718

監修 広島市危機管理室災害予防課